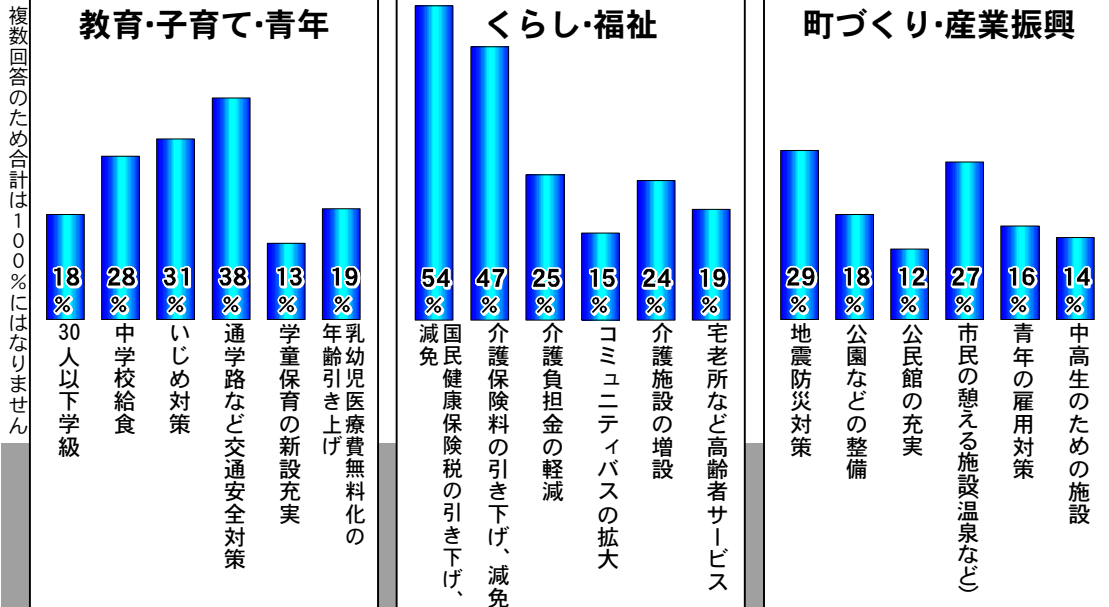


税金・国保・医療費の負担増に将来が不安の声

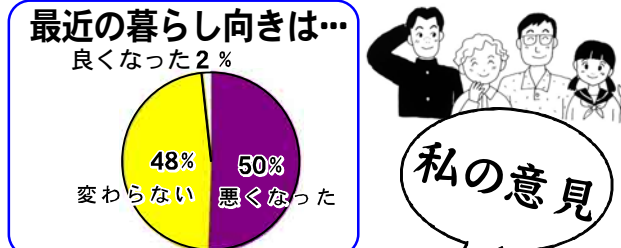
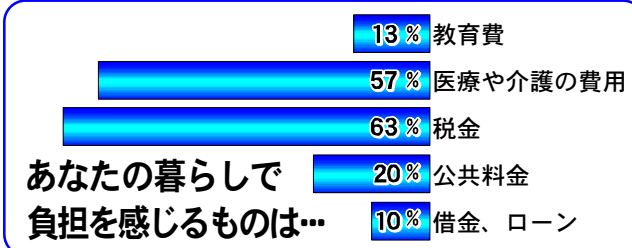
「市政アンケート」中間集計(445通のまとめ)

鈴鹿市政に何を望みますか？



- 子育て世代ですが給与も上がらず(下がる)子育ての費用の負担を感じている(30代・男)
- 保険料が高く医療費の自己負担3割の追い打ちをかけられ将来が不安(70歳以上)
- 収入が130万円を超えてしまい税金、国保などがかなり負担になる(女)
- 国保も月にすると2万円以上になり、年金生活に入り医療費もかなり負担に感じる(50代・女)
- 中学校給食は他府県では当たり前、鈴鹿市にきてびっくりした(40代・男)
- 子どもの医療費がバカにならないので他府県のように小学校高学年まで無料にして欲しい(30代・女)
- 同和行政は無駄遣いであり、早く終わって欲しい(40代・女)

- 弱者いじめの現在の政策にへきえきしております(70歳以上)
- 無駄遣いをなくし図書館やスポーツ施設を充実して欲しい(20代・女)
- 法人税の引き下げによるツゲが庶民にまわってくるのは納得できない(40代・男)
- 何よりも不正、ムダのないお金使いのひと言につきます(40代・女)



市政・生活相談地域 (中学校区)

鈴峰 白鳥 神戸 大木 創徳 千代崎 平田野 白子(稲生) 天栄 鼓ヶ浦

石田 秀三 森川ヤスエ

憲法9条を守ってほしい。安倍首相は、就任早々「任期中に憲法を変えたい」といいました。イラクに行っても戦争できない自衛隊では、アメリカに喜んでもらえない。9条改憲をめざす首相の本音はここにあると思います。日本が、いつまでも戦争しない国であり続けるために、平和を願う広範な市民と手を結んだ議員さんの活動に期待します。(東磯山・酒井 啓さん)

学童保育所を全部の小学校に作ってほしい。母子手当を現実に合うようにもっと充実してほしい。中学校も小学校のような給食にしてほしい。(神戸6丁目・高橋さつきさん)

精神障がい者の働く場を願います。社会復帰を支援する作業所などを増やしてほしいです。(南玉垣町・渡辺トミさん)

みなさんの声を市政に活かします

「家計の圧迫ばかりで子どもを安心して産めない」「20数万円の年金に18万円余の介護施設の支払い」...こんな切実な声が、日

本共産党鈴鹿市議団がお願いした市政アンケートに寄せられました。ご協力いただいたみなさんにお礼申し上げます。

住み良い鈴鹿市に

市民の皆さんと力を合わせて



市議会議員
森川ヤスエさん
矢橋3丁目10-34 電話 384-3740 FAX 384-2907
ホームページ <http://blog.ymorikawa.net/>

市議会議員
石田秀三さん
伊船町2751 電話 371-0423 FAX 371-2469
ホームページ <http://www.jcp-mie.jp/ishida/>

【略歴】●1950年生まれ、56歳。●沖縄県生まれ、上京し日本大学通信教育卒。結婚して鈴鹿に住み、29年。●95年初当選、現在3期目。毎月欠かさず議会報告「女性は太陽」を発行・配布し続ける。●矢橋3丁目に住み、家族は夫、3男(別居)。趣味はお菓子作り、読書など。

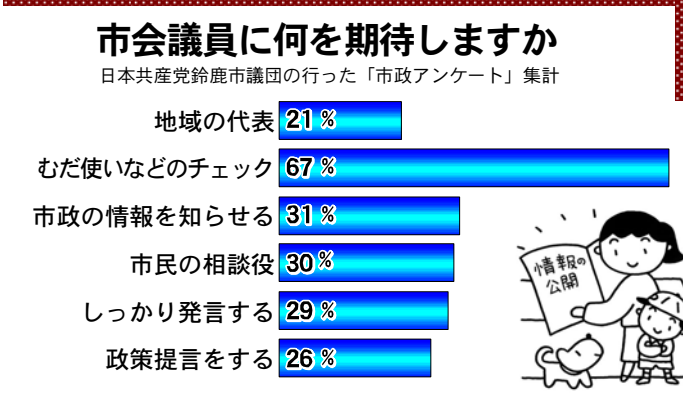
【略歴】●1953年生まれ、54歳●静岡大学卒、鈴鹿市役所に11年余勤務、86年に退職。●87年初当選、現在5期目。20年間、毎議会質問に立ち、本会議発言回数はトップ。●伊船町に住み、家族は妻、母、2男1女(別居)。趣味は山歩き、フォークソング、読書など。田んぼで米作りも。

「共産党議員の質問は、よく調べてズバリ問題を指摘されるので、私たちも勉強になりました」と、市職員OBの一人は語ります。市長の高い退職金や同和問題など、他の議員がふれない問題にも正面から議論をいどみ、是正をすすめました。

また、こうした議会での活動を「すずか民報」や「議会レポート」「女性は太陽」の発行、両議員のホームページで市民に報告し、市民からの声も大切にしています。

ハッキリ発言、しっかり報告

市長が提案した議案や予算に対して、ほとんどの議員の皆さんは「何でも賛成」という態度です。党市議団は、市民にとって良いことには賛成しますが、負担増やサ-



ビス低下になるものには反対してきました。この4年間では、361議案のうち9割に賛成、1割の37議案には反対しています。

あなたの暮らし応援します

日本共産党鈴鹿市議団

すずか民報

第124号
2007年3月
発行責任者
大井あきら
TEL 386-2443

市政報告特集
日本共産党鈴鹿市議団の活動をお知らせします。
ご意見をお寄せ下さい。



市政のチェック役、悪政の防波堤

議員に求められる大きな役割は、市民の立場から市政をチェックすることです。この4年間、党市議団は入札談合問題や高すぎる国保税の引下げなど、多くの問題を取り

上げてきました。また、介護保険や障害者福祉の改悪から市民生活を守る施策をもとめるなど、市が国の悪政の防波堤となるよう、多くの提案をしました。

良いことには賛成、悪いことには反対



くらし・福祉・教育を最優先に!

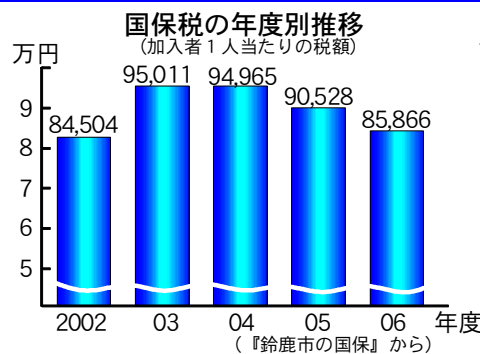


がんばってます 日本共産党鈴鹿市議団

高い国保税、引き下げました 介護認定者の税金控除なども

03年国保税が大増値上げされ、三重県下トップという高額になり支払いに困る市民が続出、収納率は県下下位に落ち込みました。党市議団は「値上げし過ぎてきた11億円もの黒字を、値下げに回せ」と主張、05年5%、06年も5%と2年連続の引き下げを実現しました。

お年寄りの税金の申告に、要介護の人は「障害者控除」ができることを市に認めさせ、「税金が安くなった」と喜ばれています。



子育て支援施設に改修した勤労青少年ホーム

市長の退職金、1割引下げ 施設の転用・活用すすめる

「1期4年」ごとに二千百万円という高い市長の退職金。党市議団は川岸市長に、ズバリ引き下げを求めました。さすがに市長も1割引カットを表明しました。利用者のへった白子の勤労青少年ホームの活用を提案、市は検討して「子育て支援」施設にすることにし、この春から利用が始まります。御園の子育て支援センター「りんりん」も、古い施設からの転用です。

役目を終えた公共施設や遊休用地を、市民のために活用します。神戸中移転後の用地も民間売却ではなく公共での利用をすすめます。



立体駐車場に西側の出入口ができました

斎場の「友引休業」変える 庁舎駐車場、展望ロビーも便利に

ただの迷信にすぎない「友引」の日を、市営斎場が休業日にしているのはおかしいと変更を求め、06年11月から友引休業をやめ「毎月15日」休業となりました。新庁舎の立体駐車場の出入口が南側1ヶ所しかなく渋滞する状態を、西側にも出入口をつけて解決するよう提案。このほど

入札改革で予算が節約できました 新庁舎は予定より13億円も安く完成

「談合疑惑」が言われた新庁舎建設、党市議団は談合対策として予定価格の引き下げなどの改革を提案。初めて予定価格を10%下げた入札を行ない、設計価格より13億円も安くなりました。その後も大きな工事は4%引き下げた入札にして、予算の節約になっています。

小規模修繕工事の制度化 入札に参加できない零細な業

さらに公平公正な入札改革をすすめます。工事以外の入札にも最低価格をもうけて、安易なダンピングを防ぎ、中小業者を守ります。

ここが問題 鈴鹿市政

市民の声がおとる 市政にしましょう

「給食」ではない、 不評の「ランチサービス」 本当の中学校給食を実現しましょう

4年前の選挙で争点となった「中学校給食」、川岸市長はそのための「中学校給食検討委員会」を立ち上げました。ところが、委員会に出させた結論は、「希望者に弁当を販売する」という的外れなもので、期待した市民はガッカリ。05年からランチサービス事業として始まりましたが、2年たっても利用率は6%ほど、生徒にも親にも先生にも不評で、利用は伸びません。

中学校給食検討委員会を再開させ、市民の声を反映した本当の給食を実現させます。まずは新築する神戸・平田野中から出来るように、力をつくります。



移転新築も近い神戸中学校

「文化振興」は看板だけ 図書館予算、1千万円もけずる

川岸市長は04年、組織改革を行ない教育委員会から「文化振興部」を独立させました。ところが、文化振興の名に反して実際は公民館の人べらし、図書館司書の嘱託化をすすめて、06年には移動図書館の廃止、図書館購入予算を3千万円から2千万円に大幅カットを行ないました。



広い鈴鹿市に本館ひとつだけの市立図書館

図書館購入予算をまず元の3千万円台に戻します。市内全域サービス計画を立て、東西南北に分館を設置します。公民館運営予算を抜本的に引き上げます。

市民に責任負えるのか? ゴミ処理の民間丸投げ

市は不燃物リサイクルセンター・埋立て処分場の第2期計画を、民間企業・ゼネコンにすべて任せる「PFI」方式を進めています。しかしその理由は、論証なしで「民間にすれば工事費が2割安くなる」という曖昧なものです。

また、可燃ゴミの焼却灰を処理する県の「廃棄物処理センター」の料金が見込み違いの穴埋めにない、「差別意識」があるという証明にしようとしています。

「同和」とつく一切の行政は「人権」と言い換えたものも合わせてすべて終結させます。市民のだれも特別扱いしない、公平公正な行政にします。



いつまでやるのか? 「同和・人権」特別扱い

30年余にわたって行なわれた同和対策のための特別法は、5年前に差別解消の目的を達したとしてなくなりました。ところが三重県や鈴鹿市はいまだに

足りないのは「心」カネはあります
鈴鹿市はいま、地方交付税をもらわない不交付団体となり、県内ではいばん財政的な指標の悪い自治体です。したがって、他の市町と同等ぐらいの行政サービスは出来て当然です。出来てない理由は、「カネが無い」のではなく、市民の暮らしを応援しようと言う「心」が足りないのです。

せっかくの対面方式
テレビ中継なのに
議会活性化に逆行する
質問時間カット
06年新庁舎の議場に移る際に、質問の対面・一問一答方式を取